

2016年のランは1月29日に開始、主として反ニュートリノモードで 4×10^{20} POT 分のデータを取得し、5月27日に夏前のランを終了した。加速器のトラブルが散発し、PACで認められたデータ量の 6×10^{20} POT を達成することはできなかったが、ビーム強度は順調に上がり、最終盤には 425kW での定常運転を達成した(右上図参照)。

秋のランは 10/26 から再開された。夏の保守改良作業の効果をビームパラメータに反映させるのに時間がかかったが、12/1 に 420kW に到達した。その後も加速器スタディを行なっているが、12/5 現在も 420kW でのビーム運転を行なっている。

T2K 実験グループでは、8月にシカゴで開催された ICHEP2016 において、 15×10^{20} POT 分の全データを用いた最新の結果を報告した。反電子ニュートリノ出現事象については候補を4イベント検出したが、バックグラウンドの予想値が 2.3 イベントであり、さらに統計が必要である。ミューオンニュートリノ出現事象においては、右中図に示すように、得られた θ_{23} の値は最大混合とコンシステントである。一方 NOvA 実験においては最大混合を 2.5σ で排除しており、今後のデータ蓄積が待たれる。CPパラメータ δ についても、右下図に示すように 90%の信頼度で $\delta_{CP}=0$ と $\delta_{CP}=\pi$ を含む領域を棄却したが、こちらもまだまだ統計が必要である。

2016年夏の作業においては、放射化冷却水系の保守や高放射化水排水に加え、ビーム窓交換装置の製作・操作試験や大強度対応ビーム形状モニタの製作・設置などを行なった。

